

生涯学習
レター

全国生涯学習市町村協議会

全国生涯学習市町村協議会
ホームページアドレス <http://www.gakushu.jp>

事務局

〒089-3392

北海道中川郡本別町北2丁目4番地1

北海道本別町企画振興課内

TEL 0156-22-8121

FAX 0156-22-3237

北海道本別町・愛媛県新居浜市にて開催

「空き活用」に成功した事例を学ぶ

全国市町村協議会フォーラム
「空き活用」とまちづくり研究会平成24年
2月11日・26日

全国生涯学習市町村協議会では、会員相互の連携を深める中で、情報交換・政策研究などを行い、新しい時代に向けたよりよいまちづくりを推進するため、さまざまな事業を実施しています。

聖徳大学生涯学習社会貢献センターにて一昨年12月に開催したフォーラムに引き続き、全国各地で、まちづくりの課題となつてい

空き地や空き施設、空き店舗や廃校などの「空きスペース」について、まちづくりの資源として有効に活用する先進事例を学び、地域資源を生かしたまちづくりにつ



いて、幅広く情報を交換し、地域の活性化を図るため、「空き活用」とまちづくり研修会を北海道本別町と愛媛県新居浜市において開催しました。

《北海道大会》

○平成24年2月11日(土)

○本別町中央公民館

○テーマ「空きスペース活用のまちづくりを考える」

▼基調提言

「過疎と高齢化から脱却するまちづくり」
聖徳大学生涯学習研究所長 福留 強 氏

過疎と高齢化が進む地域でのさまざまな現状と課題を挙げ、そういった地域から脱却するためには、行政に頼らない町民活動による地域の活性化や町民がどういったまちを



つくりたいかのビジョンをしつかり持つこと、地域資源である空き施設の有効活用などが大切であると提言。

学習することで地域が一体となり、それが活性化につながる。役所が全てやるのではなく、住民が共に活動していくことが、重要であると強調されました。

▼基調報告

「わがまちの「空き」活用と活性化について」

北海道本別町長 高橋 正夫 氏

本別町の鉄道の歴史について触れ、平成18年4月に多くの町民が涙で最後の日を迎えたことを紹介。残された旧駅舎エリアを交流拠点として、どのようにまちの活性化につなげていくかが課題であったと説明しました。

現在は「道の駅」として生まれ変わり、地場産業の振興と農商の連携促進を図る農産加工施設も完成するなど、廃線に後ろ向きにならずに整備を続けてきたことを説明し、今後も活性化するまちづくりを進めるため努力をしていくと力強く語りました。



▼事例研究

「地域の活性化と『空き施設』の効果的な活用」

- 廃校を利用したまちづくり（新冠町）
- 砂川市商工会議所の挑戦（砂川市）

新冠町では、平成20年3月に町内の9小学校を2校に統合し、廃校になった7校をインターネットを活用し、全て公売した事例を発表。現在は、老人ホームなどのさまざまな形態で活用されており、地域の雇用も生まれていることを紹介しました。

砂川市では、少子高齢化により人口が減少し、中心市街地が衰退。空き店舗などを活用する商工会議所の取り組み事例を紹介。まずは民が取り組み、行政に手を借りるのは最後であると強調しました。

▼シンポジウム

「地域資源の活用とまちづくり」

- みんなの廃校プロジェクト
文部科学省文教施設企画部施設助成課課長補佐

杉浦健太郎氏

- まちづくり教育

教育技術法則化運動T.O.S.Sおりーぶ代表

河田 祥司氏

教育技術法則化運動T.O.S.S

北海道事務局次長 田上 大輔氏

- 空き施設活用の現状と課題

北海道土士幌町長 竹中 貢氏

コーディネーター

聖徳大学生涯学習研究所長 福留 強氏

4人のパネリストが、それぞれの立場において事例等を紹介しました。

杉浦氏は、毎

年全国で500

校近くが廃校に

なっており、中

でも北海道がダ

ントツの一番で

あることを説明

し、それを活用

するさまざまな

助成制度につい

て紹介しました。

河田氏は、商店街を活性化させる「にぎわいの法則」について、会場を教室に



見立てた模擬授業形式での取り組みを紹介。田上氏は、まちづくり教育について、道内で研究実践している地域、親、教師のつながりを作る取り組みについて紹介しました。

竹中氏は、民間企業と連携し実施している廃校を利用した林間学校や空き家などを活用したテレワーク実証事業などについて説明し、都市部・農村部にはそれぞれ役割があり、さまざまな人の知恵がコラボするといふ知恵が生まれると述べました。

最後に福留氏は、先進地に学びながら、それぞれが持っている良いものを持ち寄り、観光などの交流人口を増やすことが、まちづくりにつながると語りました。

《四国大会》

○平成24年2月26日（日）

○新居浜市別子銅山記念図書館

○テーマ「空き施設の効果的な活用を考える」

▼基調講演

「新居浜市のまちづくりの現状と課題」

新居浜市長 佐々木 龍氏

新居浜市の長期総合計画と生涯学習都市宣言の理念を結びつけて説明しました。

▼基調講演

「まちづくりの転換」

「過疎と高齢化から脱却するまちづくり

聖徳大学生涯学習研究所長 福留 強氏

全国の過疎や高齢化に対して、新しい発想で解決に取り組んでいる事例が紹介されました。



▼解説

「みんなの廃校プロジェクトと市民活動」

文部科学省文教施設企画部施設助成課

振興地域係長 蒲田 仁氏

文部科学省で取り組んでいる『未来につながる「みんなの廃校」プロジェクト』

生涯学習社会の構築に向けた 社会教育行政の再構築

文部科学省生涯学習政策局長

合田 隆 史

「民主主義の訓練場」、「郷土振興の機関」、「産業振興の原動力」、「文化交流の場」・・・これらはいずれも昭和21年に示された公民館構想における公民館の機能です。戦後の荒廃した社会の中で、地域の人づくり・絆づくりを通じて、地域の元気の源となり地域社会を興していくことを目指し、戦後の社会教育行政はスタートしました。しかしそれから60有余年、現在の社会教育行政はその役割を果たし得ているのでしょうか。生涯学習社会において社会教育行政はさまざまな機関、行政を結ぶネットワーク型行政の中核とならなければならないと生涯学習審議会（当時）で提言され10年以上が経ちますが、この間、人員や予算の面も含め、社会教育行政の存在感は低下しているところが多いのではないのでしょうか。

しかし、地域主権が進むとともに、地域課題の解決は官だけの力ではなく、市民の積極的な参画が必要となる中、地域の課題を共有し、それを市民の力により解決していくための市民意識の醸成やネットワークづくりがますます重要となっています。特に、東日本大震災以降、あらためて絆の重要性が叫ばれる中、如何に地域の絆づくりを意図的意識的に進めていくかも問われています。

現在は、戦後直後とは異なり、まちづくり・地域振興行政はもちろんのこと、超高齢社会を迎える中での福祉医療問題、消費者問題や環境問題など、地域課題の解決に向けて首長部局でもさまざまな人づくり関係施策が展開されています。今、あらためて社会教育の機能・役割を再認識し、社会教育行政がこうした多くの関係行政部局と積極的に連携・協働するとともに、NPOや民間教育事業者、大学など行政外の組織とも積極的に連携し、文字通り「ネットワーク型行政の中核」となることが必要ではないのでしょうか。

「公民館活動が活発な地域は元気」という声をよく耳にしますが、本協議会にも加盟されている新居浜市のある公民館では、まちづくり協議会の総合事務局を公民館が担いながら、さまざまな地域課題の解決に地域住民が主体的に参画する体制を築き、「自分たちの地域は自分たちの力で」を住民みんなが口にするようになったと伺っています。

生涯学習社会の構築に向け、戦後の原点に立ち返り、社会教育行政が、地域の課題解決や活性化のための人づくり・絆づくりの機能・役割を存分に発揮できるよう、皆様のお力をお借りしながら、社会教育行政の再構築を進めてまいりたいと考えております。

の実践事例を踏まえ、各地でも参考にできる情報が提供されました。廃校となった学校を活用した取り組みの中には、従来の考え方の枠を超えた先進的なものも多く、発想の転換を促される話であり、また、休校状態で放置されたままの学校施設も多く残っている実情に、自治体レベルでの真剣な取り組みが必要であると感じました。



▼事例研究

「地域の活性化と空きスペースの有効活用について」

●岡山県井原市

岡山県議会議員 上田 勝義氏

●高知県津野町

農村交流施設・森の巣箱 大崎 登氏

●兵庫県西脇市

西脇市長 來住 壽一氏

●兵庫県淡路市

淡路市企画部まちづくり政策課 課長補佐 的崎 文人氏

コーディネーター

新居浜市社会教育課長 関 福生氏

四自治体における空き施設を活用した取り組み事例が紹介されました。井原市はNPOが中心になって旧銀行施設を活用し地域の福祉拠点としてまちづくりに貢献している事例、津野町では学校の校舎を再生し、地域おこしの活動拠点として活用している事例、西脇市では、まちづくりの拠点として古民家を再生している事例、淡路市では高校の施設を活用した取り組みなど、どれも多様なアイデアが生かされており、これから空き施設を有効活用していく上で貴重な示唆をいただける内容でありました。

参加者からは、休校中の小学校校舎をどうすればよいか手探り状態でありました。また、このような研究会を全国各地で展開し、同じ悩みを抱えている関係者の交流を促進することが重要であると認識しました。



が、光が見えたとの意見もあり、全国各地に眠っている貴重な社会資本である空き施設を有効活用するためには、まだまだ情報が不足していることを感じました。

平成23年度

全国生涯学習市町村協議会

研修会等補助団体 活動実績の紹介

岩手県軽米町

「食」を通じた地域
コミュニティ形成事業

軽米町では、農業や商店街の衰退が、地域活動の衰退につながる傾向があることから、「農業分野・商店街分野のコミュニティ」活性化のため、「食」をテーマに関係事業の集約と関係者のネットワーク化を図り、「地域コミュニティ形成」の推進ため、次の取り組みを行いました。

期 日 平成23年10月16日（日）

会 場 軽米町農村環境改善センターほか
内 容

○生涯学習の町宣言25周年記念事業

① 記念講演会

講演 「軽米町の求心力を探せ！」

講師 日本コナモン協会会長

熊谷 真菜 氏

記念講演会

「軽米町の求心力を探せ！」



- ② 日本一の南部せんべいづくり
- ③ チャグチャグ うまっこ撮影会
- ④ こども広場（牛乳・さるなしヨーグルト試食など）
- ⑤ シャトル馬車運行

○食フェスタinかるまい

五穀を使った巻き寿司づくり・長〜い長〜いロールケーキ作りに挑戦・郷土食デント村・地産デント村・木工体験・木炭展示販売など

○軽トララ市

栃木県宇都宮市

特別公開講座

「放射線を正しく学ぶ講演会」

宇都宮市では、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、市民生活にもさまざまな影響が及んでいる中、放射線の影響を受けやすい子どもを持つ親等を対象に放射線に関する基礎知識や人体への影響等について正しく学び、放射線に関する不安解消および理解促進を図るとともに、今後、地域での学習機会のきっかけづくりを行うため、市域全体の公開講座として講演会を開催しました。

期 日 平成23年10月14日（金）

会 場 宇都宮市文化会館

内 容

○第一部

講演 「放射線・放射能の基礎知識」

講師 埼玉大学理工学研究科・理学部

教授 坂井 貴文 氏

○第二部

講演 「放射線・放射能の健康影響」

講師 自治医科大学RIセンター

管理主任 菊地 透 氏

滋賀県大津市

生涯学習フェスタバル&
児童館わくわくフェスタ2011

大津市では、生涯学習を推進する関係団体等が中心となって、日ごろの学習の成果を発表することにより、あらゆる世代の人達に学ぶ事の楽しさ、大切さを感じてもらうきっかけ作りとなる場を提供し、更なる学びのネットワークを広げ、団体間の相互交流を一層深めるフェスタバルを開催しました。



宇都宮市
特別公開講座



期 日 平成23年10月15日（土）
会 場 大津市皇子が丘グラウンド
テーマ 「来て 見て 体験 く学びと夢
ひろば」

内 容

○ 学びの体験ブースコーナー（44団体）
大津絵をえがこう・ツイストパンづく
り・昔あそび体験・わくわく科学教室・
ねん土でつくるマナビイ・多羅葉樹の
はっぱでハガキを出そうなど

○ ステージコーナー
ジャグリングパフォーマンス・大津っ
子夢・未来体験サポーターオンステー
ジなど

○ 児童館ブース
世界一周!? あそびアラカルト（世界
国をテーマにした遊びのコーナー）



学びの体験ブースコーナー

福岡県宇美町

ふみの里まなびの森フェスタ

宇美町では、町立図

書館と生涯学習センター
を併設した「うみ・み
らい館」を中心に隣接
する中央公民館や働く
婦人の家などと連携し
て「ふみの里まなびの
森フェスタ」を開催し
ました。講演会をはじめ、少年少女の主張大
会やこども体験ワーク
ショップ、日ごろの学
習成果を発表するための作品展示など、
多彩な内容のフェスタを開催しました。



うみ・みらい館

期 日 平成23年11月20日（日）
会 場 宇美町ふみの里まなびの森コア
ゾーン

内 容

○ 講演会「チームワークとコミュニケーション
シヨクンなでしこ力」

講師 サッカー日本女子代表監督

佐々木 則夫 氏

○ 少年少女の主張大会

○ こども体験ワークシヨクン

○ ブックリサイクル

○ 作品展示コーナー



講演会
「チームワークとコミュニケーション～なでしこ力～」

鹿児島県志布志市

全国「市民大学」
交流フォーラムin志布志

地域に輝く創年志民の集い

志布志市では、全国に先駆けて推進し
ている創年市民大学の関係者が一堂に会
し、これからの地域活動（学習）のモデ
ルとして、創年市民大学の学習プログラ
ムや成果の活用についてその課題を探り、
今後の生涯学習の推進に役立てるため、
交流フォーラムを開催しました。

期 日 平成23年10月15日（土）
会 場 志布志市文化会館



市民大学恒例の創年の鐘

内 容

○ 基調提言

「なぜ、創年市民大学なのか」

提言者 聖徳大学名誉教授 福岡 強 氏

○ 事例発表

① 生涯学習グループ「TMの会」

② しまなみネットTV

③ 志布志観光ガイド

④ 志布志市NPO等連絡協議会

⑤ 志布志創年市民大学自主研究グルー
プ「だいやめ」

○ 記念シンポジウム

「元氣日本再生と市民活動」

パネリスト

東京都立川市大山団地自治会長

佐藤 良子 氏

鹿屋市柳谷自治公民館長

豊重 哲郎 氏

ほか

鹿児島県始良市

生涯学習推進大会

始良市では、生涯学習の実践成果を総括し、これからの生涯学習の在り方を探るとともに、生きがいのある人生と潤いのあるまちづくりに役立てることを目的とし推進大会を開催しました。

期 日 平成24年3月11日（日）

会 場 始良市文化会館

内 容

○オープニング

○表彰・表彰伝達式



始良市生涯学習推進大会



学習成果・活動事例発表

○学習成果・活動事例発表

〈青少年健全育成〉

「日本一に挑戦！めざせ富士山頂3,776mに挑戦で」

〈青少年地域活動〉

「そう祖母と祖父」

「ぼくの小さな思い」

〈地域づくり活動〉

「永原小学校区公民館における青少年地域活動への取り組み」

○生涯学習この一年（スライド上映）

「今、こんなところで、こんなことが」

○基調講演

「幕末明治期の歴史と文化から学ぶ」

講師 長崎総合科学大学教授

ブライアン・パークガフニ氏

全国生涯学習市町村協議会に夢

全国生涯学習市町村協議会 世話人

聖徳大学生涯学習研究所長 福留 強



昨年だけでも、全国で、年間504をこえる小中学校（平成22年度廃校文科省調べ）が、廃校になったと聞きました。いつまでもなく、少子化や、町村合併による学校の統合化などの影響を受けているものです。また、その後の活用についても、なかなか方針が決まらないうところも多く、頭を抱えている自治体も多いようです。

廃校を活用するために、耐震性の工事が必要でも、その予算が無い。さりとて解体してさらけにし、分譲する。としたいところですが、解体の費用もかかる。放置していても維持費もかなりの出費になるという。つまり廃校ひとつとっても、頭痛の種を抱えている自治体があふえているというわけです。こういった話をいくつかの自治体から聞かれました。

全国生涯学習市町村協議会に加盟して、活動したいがその機会が無いし、合併後、行革の流れで、やむなく協議会脱退ということになった自治体も多くありました。

そのような折、文部科学省の「廃学活用夢プロジェクト」の存在が、耳に入ってきました。市町村協議会の研修の一つとして「廃校活用とまちづくり」が、市町村協議会の研修になりうると考え、とりあえず聖徳大学生涯学習研究所で実施したのがその第一回でした。昨年度は、北海道本別町と、愛媛県新居浜市で実施しましたが、参加者には市町村協議会未加入の団体がありました。いずれも協議会の存在を知らずに参加したということが気に

なりましたし、一方で開催の意義を確認しました。

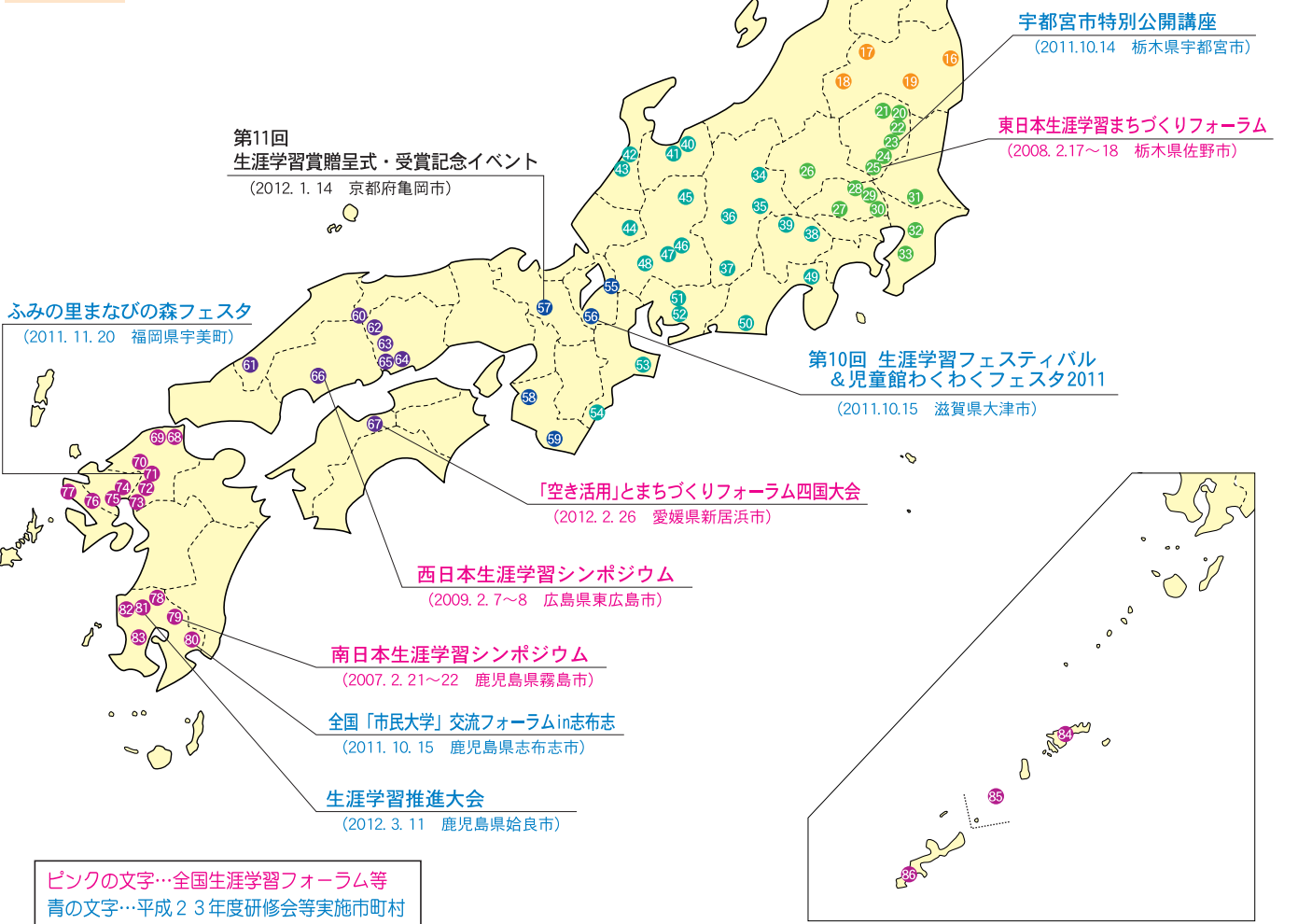
さて、まちづくりにとって市町村協議会の役割は、小さいものではありません。まちづくりに横たわる生涯学習課題について、自治体の垣根をこえて協力し、研究していくことがますます重要になってくると思われます。

この夏には、岩手県金ケ崎町で「日韓生涯学習まちづくりフォーラム」を開催しますが、生涯学習や社会教育の元気が無いといわれる現在、金ケ崎町を見れば、けつして低調なんて事はないということ、広く内外に示したいという作戦なのです。このような機会に出来るだけ多くの自治体、それも協議会に未加入の自治体に、参加を呼びかけ交流を深めたいものです。協議会の結束と熱意で、日本の生涯学習まちづくりをさらに発展させ、アジアのモデルとして実践研究を深めていきたいものです。

韓国も「生涯学習フェスティバル」を昨年で終了し（ここまでは日本と似ていますが）、ましたが、本年度から「生涯学習エキスポ」に大きく発展させるようです。我が国の生涯学習まちづくりも、韓国の元気に、負けないよう、今こそ、新しい生涯学習まちづくりの流れを、本家日本として、さらに発展させたいものです。自治体の「絆」。国を超えた自治体の「絆」は、世界を変えるかもしれません。市町村協議会に夢を抱いてしまします。

平成24年度 会員市町村

北海道	関東	中部		近畿	九州・沖縄
① 稚内市 ② 士別市 ③ 大空町 ④ 上士幌町 ⑤ 本別町 ⑥ 千歳市 ⑦ 浦河町	【栃木県】 ②⑩ 大田原市 ②⑪ 矢板市 ②⑫ さくら市 ②⑬ 宇都宮市 ②⑭ 栃木市 ②⑮ 佐野市 【群馬県】 ②⑯ 高崎市 【埼玉県】 ②⑰ 所沢市 ②⑱ 春日部市 ②⑲ 松伏町 ③⑰ 八潮市 【茨城県】 ③⑱ 阿見町 【千葉県】 ③⑲ 四街道市 ③⑳ 市原市	【長野県】 ③④ 東御市 ③⑤ 茅野市 ③⑥ 箕輪市 ③⑦ 泰阜市 【山梨県】 ③⑧ 山梨市 ③⑨ 韮崎市 【富山県】 ④⑰ 上市町 ④⑱ 富山市 【石川県】 ④⑲ 内灘町 ④⑳ 金沢市 【福井県】 ④㉑ 大野市	【岐阜県】 ④② 高山市 ④③ 白川町 ④④ 七宗町 ④⑤ 岐阜市 【静岡県】 ④⑥ 御殿場市 ④⑦ 掛川市 【愛知県】 ④⑧ 知立市 ④⑨ 安城市 【三重県】 ④⑩ 伊勢市 ④⑪ 熊野市	【滋賀県】 ⑤② 米原市 ⑤③ 大津市 【京都府】 ⑤④ 亀岡市 【和歌山県】 ⑤⑤ 有田川町 ⑤⑥ すさみ町 中国・四国 【鳥取県】 ⑥⑰ 日南町 【島根県】 ⑥⑱ 益田市 【岡山県】 ⑥㉑ 新見市 ⑥㉒ 井原市 ⑥㉓ 浅口市 ⑥㉔ 里庄町 【広島県】 ⑥㉕ 東広島市 【愛媛県】 ⑥㉖ 新居浜市	【福岡県】 ⑥⑧ 芦屋町 ⑥⑨ 岡垣町 ⑥⑩ 須恵町 ⑥⑪ 宇美町 ⑥⑫ 筑後市 ⑥⑬ 柳川市 【佐賀県】 ⑥⑭ 多久市 ⑥⑮ 武雄市 【長崎県】 ⑥⑯ 佐世保市 ⑥⑰ 平戸市 【鹿児島県】 ⑥⑱ 湧水町 ⑥㉑ 霧島市 ⑥㉒ 志布志市 ⑥㉓ 始良市 ⑥㉔ 薩摩川内市 ⑥㉕ 鹿児島市 ⑥㉖ 奄美市 ⑥㉗ 知多町 【沖縄県】 ⑥㉘ 那覇市



募集

昭和24年度

補助事業・研修会実施市町村の募集について

協議会では、毎年会員市町村において開催される生涯学習の推進に係る研修会等を援助する目的で、「全国生涯学習市町村協議会研修会等補助金交付要綱」に基づき、運営補助金交付を受ける市町村を募集しています。

平成23年度につきましても、多くの会員市町村にご応募いただき、補助金制度をご利用いただきました。実施各市町のそれぞれの取り組み状況につきましては、その概要を掲載させていただきました。

協議会といたしましては、この補助金制度を会員市町村にさらに有効にご活用していただきたいと考え、平成24年度におきましても、同程度の募集をする予定です。7月初旬の総会後に募集を開始し、その後決定させていただく流れになります。

つきましては、補助金交付を希望される会員市町村におきましては、協議会ホームページより募集要項をダウンロードしていただき、事務局まで申請していただ

くようお願いいたします。

なお、申し込み多数の場合などにつきましては、十分に検討させていただき選考・決定をさせていただくことになりま

すので、あらかじめご承知おきください。ご不明な点などございましたら、事務局までお問い合わせください。

紹介

全国生涯学習市町村協議会のホームページ



アドレス

<http://www.gakushu.jp>

全国生涯学習市町村協議会では、ホームページを作成しています。

現在、このホームページには、「加盟市町村名簿」「会則」「補助金要綱」のほか、「各市町村の状況」「お知らせ」等の記事を掲載しております。

当協議会のネットワークを通して、全国各地での取り組み状況や日ごろのご担当者の皆さんが苦慮されていることも含め、さまざまな情報を集め、会員市町村の皆様がよりよいまちづくりに貢献できるよう、ご活用いただけたら幸いです。

また、「ぜひ、この情報を掲載して欲しい!」とのご要望がありましたら、事務局までご連絡ください。このPRが、明日への発信・発展につながっていくかも知れません。

編集室から



昨年の総会後、事務局を担当する事になり、ドタバタの連続で皆様に大変にご迷惑をおかけしたことをこの紙面をお借りしまして深くお詫言いたします。

残り一年間、多くの会員市町村の皆様とのパイプを少しでも太くできるような事務局業務を担って参りたいと考えておりますので、今後ともますますのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

日韓生涯学習まちづくりフォーラム

～日韓両国の親善と生涯学習まちづくりの推進～

全国生涯学習市町村協議会の共催事業として、日韓両国の生涯学習のまちづくりに取り組んでいる関係者が共通のテーマで討論し、地域活性化に役立てるまちづくりフォーラムを開催します。

会員の皆様の参加をお待ちしております。

○期 日 平成24年8月25日(土)

○会 場 岩手県金ヶ崎町文化体育館ほか

○内 容 基調提言、基調報告、シンポジウムほか